



7月10日・11日に行われた、文京区の駒込大観音「ほおずき千成り市」での市民研の防災ブース

- STAP細胞事件は小保方さんだけが悪いんですか？ ●携帯電磁波でラットに脳腫瘍
- 博物館はどんな可能性のある場所なのか？ ●質問状へのIAEAからの回答
- E-waste(電気電子機器廃棄物)と脆弱な住民への危害 ●鋸南町の「健康まちづくり」

市民研

NPO法人 市民科学研究室

市民研へのご入会／ご寄付のご案内

この『市民研通信』に紹介されている記事論文など、市民研の活動成果は、どなたであっても無償で読んでもらえるように、ホームページですべてを公開しています。市民研では、こうした非営利・完全公開の趣旨に賛同し支えてくださる方々に、ご入会やご寄付をお願いしています。

ご送金・ご入会・ご寄付につきましては以下のやり方をお願いしています。

●100円単位の送金 100円単位のカンパや少額の送金（郵送費など）にご利用ください。

市民科学研究室の新しいホームページのメインメニューに「ご支援のお願い」があります。そこから「市民研オンラインショップ」のサイトにつながります。そのなかに、「一口100円ご送金」のカードがありますので、ご利用ください。

●会員登録 年会費を送金して次のいずれかの会員になることができます。

★レイチェル会員………年会費 10,000円（総会における議決権あり）

★ダーウィン会員………年会費 3,000円

会員になると、

- ・市民科学講座など市民研主催のどのイベントでも参加費（資料代）が半額になります（ただし市民科学講座Aコースもしくは飲食の提供を伴うイベントについては「半額」は適用されません）。
- ・市民科学研究室所蔵の書籍・文献資料や映像資料を借りることができます。
- ・事前にご連絡いただければ、u-stream配信をすることになるイベントについては、それへのアクセス情報をお伝えします。
- ・事前にご連絡いただければ、各研究会のほぼ毎月行われる会合にskypeで参加できます。
- ・レイチェル会員には市民研が今後発行する有償の出版物などがすべて無償で送付されます。

●ご寄付 一口1,000円から受け付けております。

ご送金の方法は以下のいずれかをお願い致します。

郵便振替………口座加入者名：市民科学 振替口座番号：00160-4-608503

オンライン決済………市民研ホームページの「市民研オンラインショップ」から

Information

「健康まちづくりフェスタに向けて」パンフレットを広めてください

JSTの科学技術コミュニケーション推進事業問題解決型科学技術コミュニケーション支援「ネットワーク形成型」平成27年に採択されてすすめている、「健康まちづくり」事業の案内パンフレットが出来上がりました。2016年の10月29日（土）と2017年の3月（日付未定）に、文京区・台東区を主たる対象エリアに実施する「健康まちづくりフェスタ」。その概要を紹介しています。

地域の人々のつながりを生かした、自発的な健康づくりのさまざまな取り組みが、いま各地で芽生え、育っています。NPO法人市民科学研究室が他団体とネットワークを築きながら、文京区からはじめて、推進している事業を紹介します。多くの人にこの事業を知ってきただき、またご参加・ご協力をいただくうえで、このパンフレットを役立てたいと思います。10月のフェスタにつきましては、リニューアルしました市民科学研究室のホームページで、参加・支援の登録ページを設けることにしています。

市民科学研究室のホームページからダウンロードできますが、手渡し・掲示・平置きなどで広めるのにご協力いただける方には、何部でも郵送いたしますので、お申し付けください。



Information

市民科学研究室のホームページが新しくなりました！

デザインを一新し、いろいろな記事や資料が探しやすく、見やすくなるように工夫をこらしています。Facebookをしている方にはWeb上で直接、記事などを読んでのコメントを書き込んでいただけます。また、オンラインの送金システムも使いやすいものになりました。ご覧になってのご意見・ご感想をお寄せいただけると幸いです。

生活習慣病対策ゲーム「ネゴバト」ゲームパッケージを無償で提供しています！

「ネゴシエート・バトル：生活習慣病対策ゲーム」（通称：ネゴバト）は、生活習慣のジレンマ（板挟み）について話し合うための対面型交渉型ゲームです。健康教育教材として高校や大学の授業や、地域や企業の健康指導研修などでご利用いただけます。

2016年7月から2017年12月までの期間において、「モニター」になっていただける場合は、ゲームパッケージ（説明書付き）一式を、送料のみご負担いただく形でご提供・送付いたします。「モニター」には、実際に参加者を集めてネゴバトを実施し、その実施状況をこちらが用意した簡単な「アンケート」に答えていただくことになります。送料400円のみご負担いただけます（「市民研オンラインショップ」をご利用ください）。

企業内や行政の保健施設などでの、健康相談や健康指導の場において、市民科学研究室の担当スタッフが赴いて、多人数の参加者を対象にネゴバトを実施することも大いにおすすめしたいと思います。ぜひお気軽にお問い合わせください。



【推薦の言葉】

ネゴバトは、生活習慣病に関して世代を超えて、楽しく遊びながら学べるゲームです。この「楽しさ」というのは、これからの健康学習におけるキーワードでしょう。生活習慣病を改善あるいは予防するためには当事者が主体的に、かつ継続的に病氣と向き合うことが必要です。しかしそれが辛く苦しいものであれば、長続きしないでしょう。ネゴバトは、楽しく気軽に生活習慣病とその予防について学び、また、自分の普段の考えや行動について「ちょっと待てよ、これでいいのかな」と振り返る機会も与えてくれます。若い方からご年配の方まで、多くの方に勧めたいと思います。

孫 大輔

（東京大学大学院医学系研究科・医学教育国際研究センター講師 家庭医療専門医）

Event

市民科学講座 B コース

2015年7月から始まった市民科学講座Bコース。第1期は 2015年7月から2016年10月までの全14回です。

第12回 8月26日(金)

池尻成二さん、区政の現場に「科学」はどのように関わってくるのでしょうか？

例えば東京都においては、環境や保健・医療といった分野で多くの区民が解決を望む様々な問題を、どう区政に反映していけるのか、その場合に国と都と区の関係はどうなっているのか、現場の状況からどうデータをとり科学的なリスク評価につなげるのか、意見の相違や対立をどうのりこえて施策を決めていくのか……「科学」の使われ方・生かされ方を、池尻さんとじっくり論じ合ってみたいと思います。



1955年、福岡市生まれ。九州大学医学部中退。1991年、無所属で練馬区議会議員選挙に挑戦。2003年、4回目の選挙で初当選。2014年、練馬区長選に立候補、当選ならず。2015年、区議会に復帰。市民活動とつながりながら、まちづくりから子育てまで、幅広いテーマに取り組む。

⇒事前予約が必要です（定員40名先着順、申し込みは市民研ホームページより）



〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-1-1 団子坂マンション公園側棟 ☎ 03-5834-8328 / fax. 03-5834-8329

renraku@shiminkagaku.org / www.shiminkagaku.org

NPO法人 市民科学研究室

榎木英介さん、
STAP細胞事件は小保方さんだけが悪いんですか？

講師：榎木英介 (病理診断医、「サイエンス・サポート・アソシエーション」代表)

STAP細胞事件は世間を騒がし、のちに撤回されたNature論文の筆頭著者だった小保方晴子さんは極悪人のように叩かれました。しかし、小保方さんだけが悪いのでしょうか？決してそんなことはありません。研究不正が発生する背景には、発生を促す構造があり、STAP細胞事件の影には報道されない多くの研究不正があります。研究不正を発生させる構造とは何か、どうやったら防ぐことができるのか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。……



千葉県鋸南町の「健康まちづくり」事業
～「ポールdeウォーク大学2016 in きょなん」に参加して～

千葉県鋸南町の認知症予防に重点を置いた介護予防の取り組みとその実績に注目が集まっている。評価すべき点は、行政が行っているのではなく住民と一体化した取り組みをされているということ。ちなみに取り組みをされている方々の合言葉は「お金のない鋸南町」笑ってはいけなが、笑いを誘う。しかし、それは超高齢化社会、医療費問題等、笑えない現実を住民たち一人ひとりが真剣に向き合い、自分たちの生活をより良くするための合言葉なのかもしれません。鋸南町地域包括支援センターの櫻井好枝保健師より「2011年3月の震災の時が起きたあと、介護予防教室に参加している方に津波の恐れがあったが避難したかと聞いたら『足に自身がないから逃げなかった』と。なんのための予防教室をやっていたのだろう、自分の命を守れないのは良くないと思ったのがきっかけでした」と、ポールウォーキングとの出会いを聞きました。

ポールウォーキングとは、両手に専用の2本のポールを持つだけで始められる運動となっています。ポールを持つだけで姿勢が良くなることを実感でき、足腰が痛くても着地するときポールを同時につくことにより1本の足で支えるところをもう1本で支えることができさらに安定して歩くことができます。

⇒続きは市民研 HP で



携帯電磁波でラットに脳腫瘍
米国国家毒性プログラムで判明

携帯電話の電磁波を頭部に浴びると脳腫瘍のリスクが高まるのかどうかは、10年以上にわたって論争が続いており、いまだに決着がついてはいませんが、この5月に新しいニュースが飛び込んできました。これまでになされた、携帯電話電磁波を動物個体に照射するという実験としては最も規模が大きく、国際的にも最も権威ある機関によってなされた実験の結果が「クロ」と出たわけです。

米国国家毒性プログラム (National Toxicology Program) は、工業、農業、医薬化粧品、食品添加物等々、化学物質の種々の毒性、とりわけ発がん性に関しては、省庁を横断して様々な試験を行い、試験法・評価法の開発を含めて、その結果が規制政策に反映されることが何度もあった、という、大変影響力の大きい研究プログラムです。

今回の携帯電磁波に関するNTPの結果の詳細 (最終報告書) はまだ公表されていませんが、以下に訳出した2つの報道記事から、今後大きな波紋を生んでいくだろうことが予想されます。

- 携帯電話研究により発がん問題が再燃 高周波電磁波の曝露がラットの腫瘍形成に関連 scientificamerican.com より by Dina Fine Maron 2016年5月27日
- 携帯電話電磁波照射で動物の発がん率が上昇 予算2500万ドルNTP研究が脳腫瘍を発見 政府に期待される健康リスクに関する公衆への注意喚起 microwavenews.com 2016年5月25日 より

⇒続きは市民研 HP で

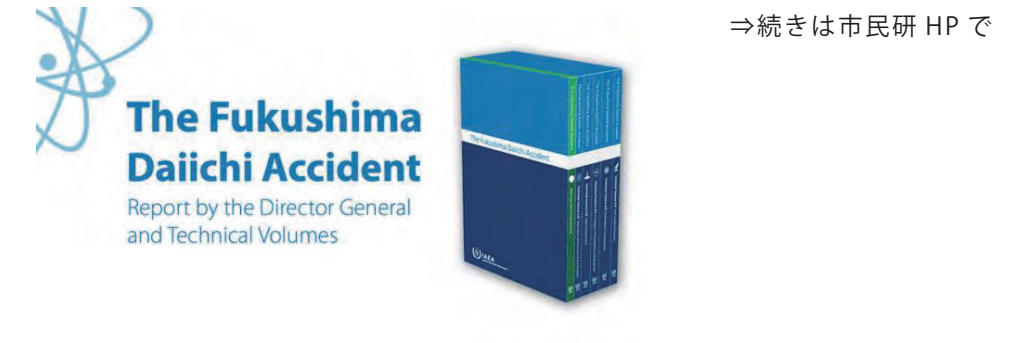


IAEAの「福島第一原発事故報告書」に関する
公開質問状へのIAEAからの回答

市民科学研究室・低線量被曝研究会のメンバーが、IAEA (国際原子力機関) が2015年に発刊した『福島第一原発事故 The Fukushima Daiichi Accident』という報告書の内容を検討し、16項目にわたる質問状を作成し、IAEAに送りました (2016年3月22日)。それに対して、IAEAから回答が届けられました (2016年6月22日付)。16項目の質問に対して1問ずつの回答が全体で3ページに渡って記されています。

その回答書の原文ならびに日本語訳を掲載します。なお、日本語訳の方には各回答に対して低線量被曝研究会からのコメントを添えました。IAEAへの再質問をどのような形で行うかについては、現在研究会のメンバーで検討しているところです。

- An Open Letter to IAEA from CSIJ (English)
- IAEAへの公開質問状 (英語・日本語併記) :
- Replies to the questions of the Citizen Science Initiative Japan (by IAEA) (English)
- 市民研からの質問状に対するIAEAからの回答ならびにその回答に対するコメント



三河内彰子さん、
博物館はどんな可能性のある場所なのですか？

講師：三河内彰子 (東京海洋大等で学芸員課程の講師、東大総合研究博物館研究事業協力者)

博物館 (水族館や動物園、そして美術館なども含むいわゆるミュージアム) ではモノが集められ、吟味され、そして公開されるという共通点があります。現在、これらの3つの過程のどの部分で市民参加が行われていると思いますか？実は、全部なのです。博物館のルーツは西欧の王侯貴族が珍品を集め収めた「驚異の部屋」と言われています。ごく私的な空間が市民社会の成立とともに社会に公開され、その後様々な様式をとってきました。今やモノの専門家とそれを利用する市民が相互にコミュニケーションをする空間も出現しています。研究活動をする専門家と一般市民が出会える場であるというだけでなく、双方の活動を社会に深くつなげる組織であるということ、その点に科学技術と社会の関係を考える上での博物館の可能性が見出せます。近年は研究活動の一部に市民が参加する例や、社会の新たなニーズを博物館がその特徴を活かして担う例が増える傾向にあります。とはいえ、交流の仕方や程度は館によっても違いがあります。国内外のミュージアムの例を吟味し、地域の影響に加え、運営組織や構成員、また、歴史・文化的な背景と作用しあって形作られる博物館 (の知) の動的な側面に目を向けることで、博物館における市民参加の様式について、皆さんと大いに議論したいと思います。



【翻訳】E-waste (電気電子機器廃棄物) と脆弱な住民への危害
—深刻化する全世界的な問題—

Environmental Health Perspectives 124巻4月号、5月号(2016年)より

●E-wasteと脆弱な住民への危害:深刻化する全世界的な問題
E-Waste and Harm to Vulnerable Populations: A Growing Global Problem by M. Heacockほか
電気電子廃棄物 (e-waste; Electronic waste) の産出量は驚異的で、地球規模では2014年には推定4180万トンにのぼるといふ。……しかし低開発国における取扱いと処理はしばしば安全性が低く、汚染された環境に導いてしまう。粗末な野放しにされた加工処理は結果としてそれに続く有害な化学物質の暴露を引き起こし、女性と子供を含む脆弱な住民に襲いかかる。それにもかかわらず、e-wasteの危害は研究や公衆衛生の協議事項の中ではまだそれほど注目されていない。……

●胎児期の大気汚染と出生時体重の減少:潜在的メカニズムとして胎盤ミトコンドリアの減少
Prenatal Air Pollution and Reduced Birth Weight: Decline in Placental Mitochondria as a Potential Mechanism by Julia R. Barrett
胎児期において大気汚染に晒されることと、低出生時体重、子宮内成長抑制及び早産を含む結果がもたらされることとの関連を示す強固な疫学的証拠がある。最近の研究は胎児期の大気汚染暴露と出生時体重の減少との関連が一部分胎盤のミトコンドリア含有量の減少とリンクしている証拠を見出している。妊娠の間、胎盤は胎児の栄養、成長及び発育を支えており、胎盤の細胞内ミトコンドリアはそれらの過程に欠くことができない。エネルギー生成を調節する細胞内小器官であるミトコンドリアは酸化ストレスによって発生する活性酸素種によって容易にダメージを受ける。……

●21世紀のリスクアセスメントを21世紀のサイエンスで知らせる
Informing 21st-Century Risk Assessments with 21st-Century Science by L. S. Birnbaumほか
…… 21世紀のサイエンスはシステム生物学、ゲノム研究と発生遺伝学、バイオインフォマティクス、曝露サイエンス、環境疫学の分野を驚くほど躍進させ、化学的測定と分析的技術において技術革新を推進してきた。このような進歩は化学物質が生物系といかに相互作用するかという疑問に対して我々の理解を拡げてきたのである。……

⇒続きは市民研ホームページの「活動と資料」のなかの「海外文献翻訳」でお読みいただけます。